

## 材料の力学1 Step 3 第11回演習問題 (2019/7/9 実施)

- [1] 図 1.1 に示すような長さ  $3L$  のはりにおいて、OA 間と CD 間に分布荷重  $p$  が下向きに作用している。また、はりの断面は図 1.2 に示すような 1 辺が  $2a$  の正六角形となっている。縦弾性係数を  $E$  とし、以下の問い合わせに答えよ。

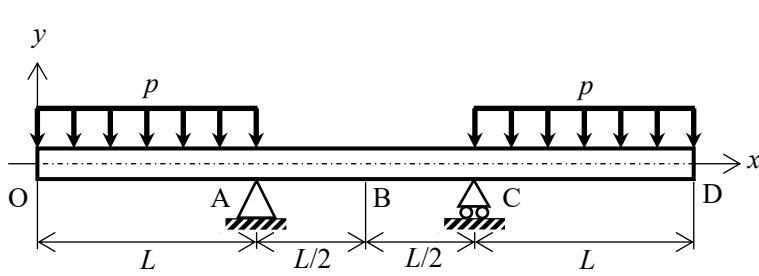


Fig. 1.1 分布荷重を受けるはり。

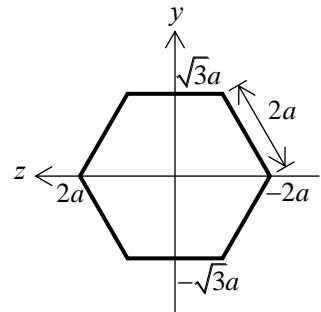


Fig. 1.2 はり断面図。

- (1) はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_z$  を求めよ。

以下の問い合わせでは曲げ剛性を  $EI$  として答えよ。

- (2) A, C 点における支点反力  $R_A$ ,  $R_C$  をそれぞれ求めよ。
- (3) 対称性を考慮してはりの OB 間に生じる曲げモーメント  $M(x)$  を特異関数表示せよ。
- (4) はりのたわみ角  $v'(x)$ , たわみ  $v(x)$  を表す式を求めよ。
- (5) はりに最大たわみ  $v_{\max}$  が生じる位置を示し、最大たわみ  $v_{\max}$  を求めよ。

(1) はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_z$  を求めよ.

はりの断面 2 次モーメント  $I_z$  は、図 1.3 に示すように部材 A と部材 B に分け、部材 A の断面 2 次モーメント  $I_{zA}$  と部材 B の断面 2 次モーメント  $I_{zB}$  を足し合わせることで求まる.

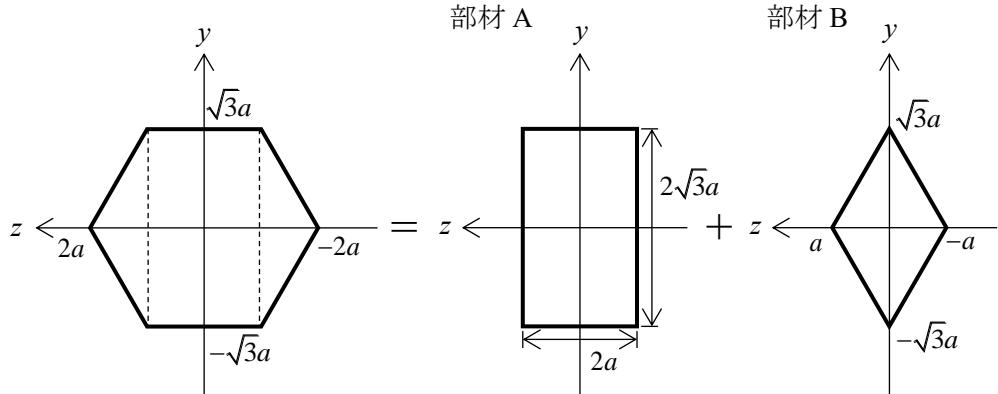


Fig. 1.3 断面 2 次モーメントの導出方法.

それぞれの部材における断面 2 次モーメントを求める.

i) 部材 A について

断面は長方形であるから、 $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_{zA}$  は次のように求まる. ここで、 $b$  は長方形の幅、 $h$  は高さを表す.

$$I_{zA} = \frac{bh^3}{12} = \frac{2a \cdot (2\sqrt{3}a)^3}{12} = 4\sqrt{3}a^4 \quad (1.1)$$

ii) 部材 B について

断面は  $z$  軸について対称であるから  $z$  軸の上部のみ考える.

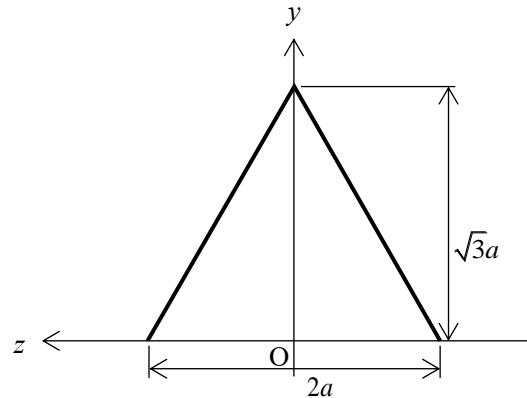


Fig. 1.4 はりの断面.

$z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_{zB}$  は次式で表される. ここで,  $b$  は三角形の底辺,  $h$  は高さを表す.

$$\frac{I_{zB}}{2} = \frac{bh^3}{12} = \frac{2a \cdot (\sqrt{3}a)^3}{12} = \frac{\sqrt{3}}{2} a^4 \quad (1.2)$$

$$\therefore I_{zB} = \sqrt{3}a^4 \quad (1.3)$$

以上より, はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_z$  は,

$$I_z = I_{zA} + I_{zB} = 5\sqrt{3}a^4 \quad (1.4)$$

～別解～

部材 B の断面 2 次モーメント  $I_{zB}$  の算出について, 以下に別解を示す. 断面は  $z$  軸について対称であるから  $z$  軸の上部のみ考える.

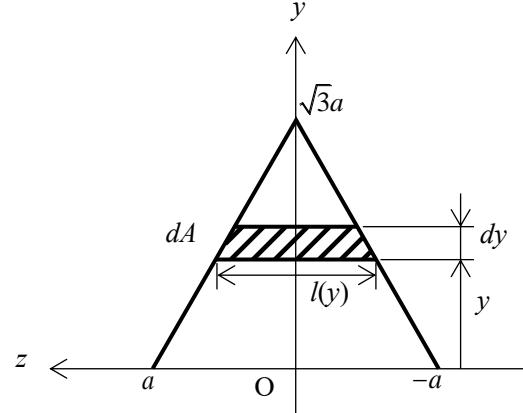


Fig. A はりの断面.

$z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_{zB}$  は次式で表される.

$$\frac{I_{zB}}{2} = \int_A y^2 dA \quad (A1)$$

ここで, 図 1.4 より  $dA$  は,

$$\begin{aligned}
dA &= l(y) dy \\
&= 2 \left\{ a - \left( \frac{y}{\sqrt{3}} \right) \right\} dy
\end{aligned} \tag{A2}$$

式(A1), (A2)より断面 2 次モーメント  $I_{zB}$  は以下のように求まる.

$$\begin{aligned}
\frac{I_{zB}}{2} &= \int_0^{\sqrt{3}a} y^2 \times 2 \left\{ a - \left( \frac{y}{\sqrt{3}} \right) \right\} dy \\
&= 2a \int_0^{\sqrt{3}a} y^2 dy - \frac{2}{\sqrt{3}} \int_0^{\sqrt{3}a} y^3 dy \\
&= 2a \left[ \frac{y^3}{3} \right]_0^{\sqrt{3}a} - \frac{2}{\sqrt{3}} \left[ \frac{y^4}{4} \right]_0^{\sqrt{3}a} \\
&= \frac{\sqrt{3}}{2} a^4
\end{aligned} \tag{A3}$$

$$\therefore I_{zB} = \sqrt{3}a^4 \tag{A4}$$

(2) A, C 点における支点反力  $R_A$ ,  $R_C$  をそれぞれ求めよ.

はり全体の FBD は図 1.5 のように描ける.

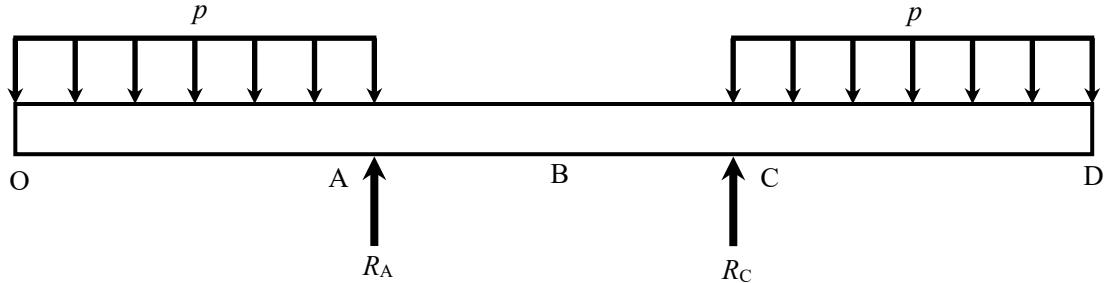


Fig. 1.5 はり全体の FBD.

図 1.5において力のつり合いは以下のように表される.

$$R_A + R_C - pL - pL = 0 \tag{1.5}$$

対称性より  $R_A = R_C$  であるから, 支点反力  $R_A$ ,  $R_C$  は以下のように求まる.

$$R_A = R_C = pL \quad (1.6)$$

(3) 対称性を考慮してはりの OB 間に生じる曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示せよ.

OB 間に生じる曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示するにあたり, 図 1.6 のように AB 間の上下に分布荷重  $p$  が作用していると見なす. なお, この AB 間に作用する分布荷重  $p$  は上下で打ち消し合うことに注意する.

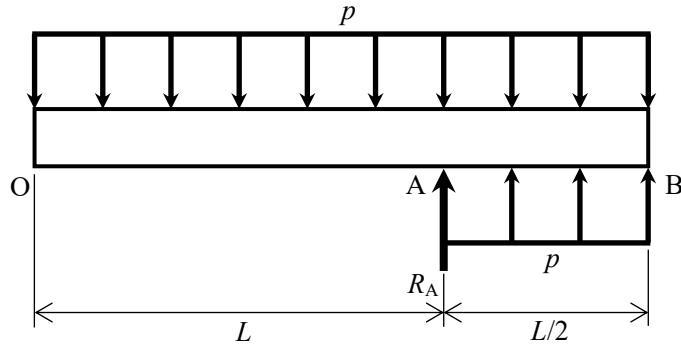


Fig. 1.6 FBD.

図 1.6において曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示すると次のようになる.

$$M(x) = \frac{1}{2}p\langle x \rangle^2 - \frac{1}{2}p\langle x-L \rangle^2 - R_A\langle x-L \rangle^1 \quad (1.7)$$

式(1.6)を踏まえると最終的に以下のように表される.

$$M(x) = \frac{1}{2}p\langle x \rangle^2 - \frac{1}{2}p\langle x-L \rangle^2 - pL\langle x-L \rangle^1 \quad (1.8)$$

(4) はりのたわみ角  $v'(x)$ , たわみ  $v(x)$ を表す式を求めよ.

たわみの基礎式と式(1.8)より,

$$\begin{aligned} -EIv''(x) &= M(x) \\ &= \frac{1}{2}p\langle x \rangle^2 - \frac{1}{2}p\langle x-L \rangle^2 - pL\langle x-L \rangle^1 \end{aligned} \quad (1.9)$$

よって, はりのたわみ角  $v'(x)$ , たわみ  $v(x)$ は以下のように表される.

$$-EIv'(x) = \frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 + C_1 \quad (1.10)$$

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 + C_1 \right\} \quad (1.11)$$

$$-EIv(x) = \frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 + C_1x + C_2 \quad (1.12)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 + C_1x + C_2 \right\} \quad (1.13)$$

ここで、 $C_1, C_2$  は積分定数である。対称性より B 点において  $v'(3L/2)=0$  であるから、

$$v'\left(\frac{3L}{2}\right) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}p\left(\frac{3L}{2}\right)^3 - \frac{1}{6}p\left(\frac{L}{2}\right)^3 - \frac{1}{2}pL\left(\frac{L}{2}\right)^2 + C_1 \right\} = 0 \quad (1.14)$$

$$\begin{aligned} \therefore C_1 &= \left( -\frac{27}{48} + \frac{1}{48} + \frac{6}{48} \right) pL^3 \\ &= -\frac{5}{12} pL^3 \end{aligned} \quad (1.15)$$

また、A 点においては  $v(L)=0$  であるから、

$$v(L) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24}pL^4 - \frac{5}{12}pL^4 + C_2 \right) = 0 \quad (1.16)$$

$$\begin{aligned} \therefore C_2 &= \left( -\frac{1}{24} + \frac{10}{24} \right) pL^4 \\ &= \frac{3}{8} pL^4 \end{aligned} \quad (1.17)$$

以上より、はりのたわみ角  $v'(x)$ 、たわみ  $v(x)$  は以下の式で表される。

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 - \frac{5}{12}pL^3 \right) \quad (1.18)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 - \frac{5}{12}pL^3x + \frac{3}{8}pL^4 \right) \quad (1.19)$$

(5) はりに最大たわみ  $v_{\max}$  が生じる位置を示し、最大たわみ  $v_{\max}$  を求めよ。

最大たわみ  $v_{\max}$  は対称性より  $x = 0, 3L$  または  $x = 3L/2$  の位置で生じると考えられる。そのため、 $x = 0, 3L$  と  $x = 3L/2$  におけるたわみをそれぞれ算出し、その大きさを比較することで最大たわみ  $v_{\max}$  を求める。

$x = 0, 3L$  と  $x = 3L/2$  におけるたわみは式(1.19)より次のように求まる。

$$\begin{aligned} v(0) &= v(3L) \\ &= -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24} p \cdot 0^4 - \frac{5}{12} pL^3 \cdot 0 + \frac{3}{8} pL^4 \right) \\ &= -\frac{3pL^4}{8EI} \end{aligned} \quad (1.20)$$

$$\begin{aligned} v\left(\frac{3L}{2}\right) &= -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{24} p \cdot \left(\frac{3L}{2}\right)^4 - \frac{1}{24} p \cdot \left(\frac{L}{2}\right)^4 - \frac{1}{6} pL \cdot \left(\frac{L}{2}\right)^3 \right. \\ &\quad \left. - \frac{5}{12} pL^3 \cdot \left(\frac{3L}{2}\right) + \frac{3}{8} pL^4 \right) \\ &= -\frac{pL^4}{EI} \left( \frac{81}{384} - \frac{1}{384} - \frac{8}{384} - \frac{240}{384} + \frac{144}{384} \right) \\ &= \frac{pL^4}{16EI} \end{aligned} \quad (1.21)$$

式(1.20), (1.21)より  $|v(0)| = v(3L) > |v(3L/2)|$  であるから、最大たわみ  $v_{\max}$  は  $x = 0, 3L$  の位置で生じその値は、

$$v_{\max} = -\frac{3pL^4}{8EI} \quad (1.22)$$

- [2] 図 2 に示すような左端が壁に固定され点 A で単純支持されている長さ  $3L$  のはりがある。はりには、点 B に集中荷重  $P$  ( $P=3pL$ )、OA 間に分布荷重  $p$  がそれぞれ下向きに作用している。このとき以下の問い合わせ答えよ。ただし、はりの曲げ剛性を  $EI$  とする。

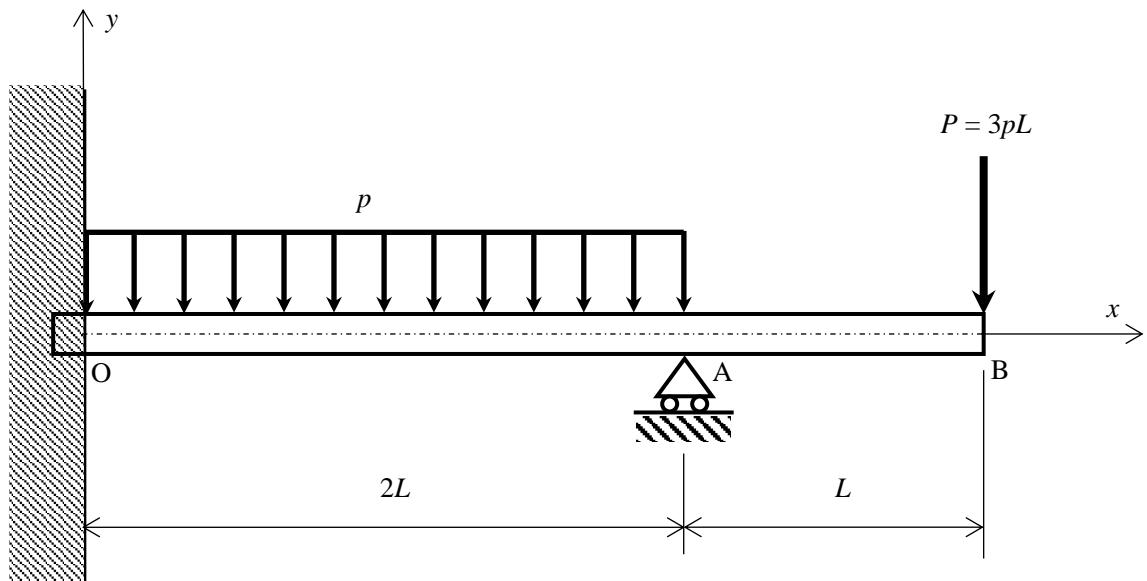


Fig. 2 壁に固定されたはり。

- (1) 壁からの反力を  $R_O$ 、反モーメントを  $M_O$ 、点 A における反力を  $R_A$  としてはり全体の FBD を描き、力のつり合い式および点 O まわりのモーメントのつり合い式を求める。
- (2) はりの曲げモーメント  $M(x)$  を特異関数表示せよ。
- (3) 壁からの反力  $R_O$ 、反モーメント  $M_O$ 、点 A における反力  $R_A$  をそれぞれ求めよ。
- (4) 点 B におけるはりのたわみ角  $\nu'_B$ 、たわみ  $\nu_B$  をそれぞれ求めよ。

(1) 壁からの反力を  $R_O$ , 反モーメントを  $M_O$ , 点 A における反力を  $R_A$  としてはり全体の FBD を描き, 力のつり合い式および点 O まわりのモーメントのつり合い式を求めよ.

壁からの反力  $R_O$ , 反モーメント  $M_O$ , 点 A における反力  $R_A$  を用いてはり全体の FBD を描くと下図のようになる.

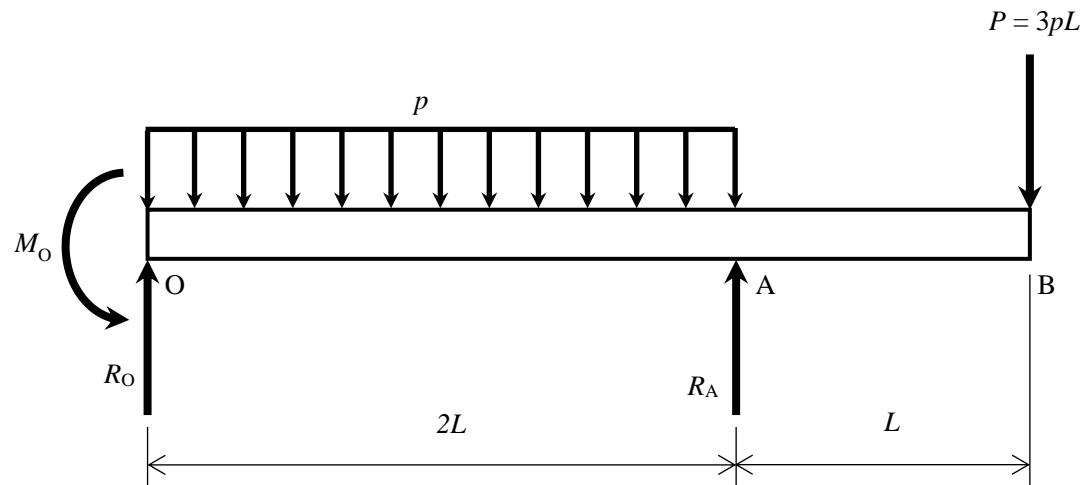


Fig. 2.1 はり全体の FBD.

力のつり合い式は以下のようになる.

$$\begin{aligned} -2pL - P + R_O + R_A &= 0 \\ -2pL - 3pL + R_O + R_A &= 0 \end{aligned} \tag{2.1}$$

また, 点 O まわりのモーメントのつり合い式は以下のようになる.

$$\begin{aligned} -M_O + \int_0^{2L} pxdx + 3PL - 2R_A L &= 0 \\ -M_O + 2pL^2 + 9pL^2 - 2R_A L &= 0 \end{aligned} \tag{2.2}$$

(2) はりの曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示せよ.

曲げモーメント  $M(x)$ の特異関数表示を考えるために, はりの  $2L \leq x \leq 3L$ において上下に分布荷重  $p$  が作用している場合を考える. このとき FBD を描くと下図のようになる. ただし,  $2L \leq x \leq 3L$ において上下に作用する分布荷重  $p$  は互いに打ち消し合うことに注意する.

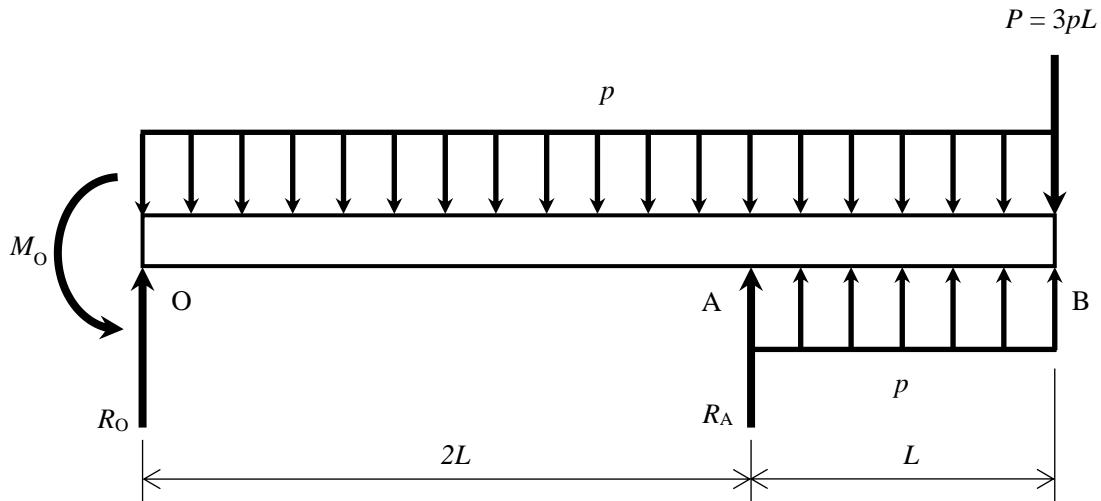


Fig. 2.2 FBD.

上図よりはりの曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示すると以下のようになる.

$$M(x) = M_o \langle x \rangle^0 - R_o \langle x \rangle^1 - R_A \langle x - 2L \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{p}{2} \langle x - 2L \rangle^2 \quad (2.3)$$

(3) 壁からの反力  $R_o$ , 反モーメント  $M_o$ , 点 A における反力  $R_A$ をそれぞれ求めよ.

はりのたわみの基礎式に式(2.3)にて示した曲げモーメント  $M(x)$ を代入すると,

$$-EIv'' = M_o \langle x \rangle^0 - R_o \langle x \rangle^1 - R_A \langle x - 2L \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{p}{2} \langle x - 2L \rangle^2 \quad (2.4)$$

のよう に表され, 両辺を積分すると,

$$\begin{aligned} -EIv' &= M_o \langle x \rangle^1 - \frac{R_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + C_1 \\ v' &= -\frac{1}{EI} \left\{ M_o \langle x \rangle^1 - \frac{R_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + C_1 \right\} \end{aligned} \quad (2.5)$$

$$-EI\nu = \frac{M_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_o}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x - 2L \rangle^4 + C_1 x + C_2$$

$$\nu = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{M_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_o}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x - 2L \rangle^4 + C_1 x + C_2 \right\} \quad (2.6)$$

が得られる。ただし、 $C_1, C_2$  は積分定数である。

ここで境界条件について考える。点 O は固定端なので境界条件は、

$$\nu(0) = \nu'(0) = 0 \quad (2.7)$$

であり、点 A は単純支持であるので境界条件は、

$$\nu(2L) = 0 \quad (2.8)$$

である。

式(2.5), (2.6)に関して式(2.7)に示した境界条件より、

$$C_1 = C_2 = 0 \quad (2.9)$$

であるため、たわみ角  $\nu'(x)$ 、たわみ  $\nu(x)$  は、

$$\nu' = -\frac{1}{EI} \left[ M_o \langle x \rangle^1 - \frac{R_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x - 2L \rangle^3 \right] \quad (2.10)$$

$$\nu = -\frac{1}{EI} \left[ \frac{M_o}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_o}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x - 2L \rangle^4 \right] \quad (2.11)$$

と表される。また、式(2.11)に対して式(2.8)に示した境界条件を考えると、

$$0 = \frac{M_o}{2} (2L)^2 - \frac{R_o}{6} (2L)^3 + \frac{p}{24} (2L)^4$$

$$= 2M_o L^2 - \frac{4}{3} R_o L^3 + \frac{2}{3} p L^4$$

$$\therefore 3M_o - 2R_o L = -p L^2 \quad (2.12)$$

のように整理できる. ここで, 式(2.1), (2.2)を整理すると,

$$R_O + R_A = 5pL \quad (2.13)$$

$$M_O + 2R_A L = 11pL^2 \quad (2.14)$$

のように表される. 反力  $R_O$ , 反力  $R_A$ , 反モーメント  $M_O$  は式(2.12), (2.13), (2.14)を連立して求める. 式(2.12), 式(2.14)より反モーメント  $M_O$  を消去すると,

$$R_O + 3R_A = 17pL \quad (2.15)$$

が得られる. 式(2.13), 式(2.15)より反力  $R_A$ ,  $R_O$  は,

$$\begin{aligned} 2R_A &= 12pL \\ R_A &= 6pL \end{aligned} \quad (2.16)$$

$$\begin{aligned} R_O + 6pL &= 5pL \\ R_O &= -pL \end{aligned} \quad (2.17)$$

と求められる. 反モーメント  $M_O$  は式(2.14), (2.16)より,

$$\begin{aligned} M_O + 12pL &= 11pL^2 \\ M_O &= -pL^2 \end{aligned} \quad (2.18)$$

と求められる. 以上より, 反力  $R_O$ ,  $R_A$ , 反モーメント  $M_O$  をまとめると以下のようになる.

$$\begin{cases} R_O = -pL \\ R_A = 6pL \\ M_O = -pL^2 \end{cases} \quad (2.19)$$

(4) 点 B におけるたわみ角  $v'_B$ , たわみ  $v_B$  をそれぞれ求めよ.

式(2.10), (2.11)に式(2.19)を代入するとはりのたわみ角  $v'(x)$ , たわみ  $v(x)$  はそれぞれ以下のように表される.

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ -pL^2 \langle x \rangle^1 + \frac{pL}{2} \langle x \rangle^2 - 3pL \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x - 2L \rangle^3 \right\} \quad (2.20)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ -\frac{pL^2}{2} \langle x \rangle^2 + \frac{pL}{6} \langle x \rangle^3 - pL \langle x - 2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x - 2L \rangle^4 \right\} \quad (2.21)$$

式(2.20), (2.21)に  $x = 3L$  をそれぞれ代入することでたわみ角  $v'_B$ , たわみ  $v_B$  は以下のように求められる.

$$\begin{aligned} v'_B &= -\frac{1}{EI} \left\{ -pL^2 \langle 3L \rangle^1 + \frac{pL}{2} \langle 3L \rangle^2 - 3pL \langle 3L - 2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle 3L \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle 3L - 2L \rangle^3 \right\} \\ &= -\frac{1}{EI} \left( -3pL^3 + \frac{9}{2} pL^3 - 3pL^3 + \frac{9}{2} pL^3 - \frac{1}{6} pL^3 \right) \\ &= -\frac{17pL^3}{6EI} \end{aligned} \quad (2.22)$$

$$\begin{aligned} v_B &= -\frac{1}{EI} \left\{ -\frac{pL^2}{2} \langle 3L \rangle^2 + \frac{pL}{6} \langle 3L \rangle^3 - pL \langle 3L - 2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle 3L \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle 3L - 2L \rangle^4 \right\} \\ &= -\frac{1}{EI} \left( -\frac{9}{2} pL^4 + \frac{9}{2} pL^4 - pL^4 + \frac{27}{8} pL^4 - \frac{1}{24} pL^4 \right) \\ &= -\frac{7pL^4}{3EI} \end{aligned} \quad (2.23)$$

～別解～

点 B におけるたわみ角  $v'_B$ , たわみ  $v_B$  はについて重ね合わせの原理を用いて求める.

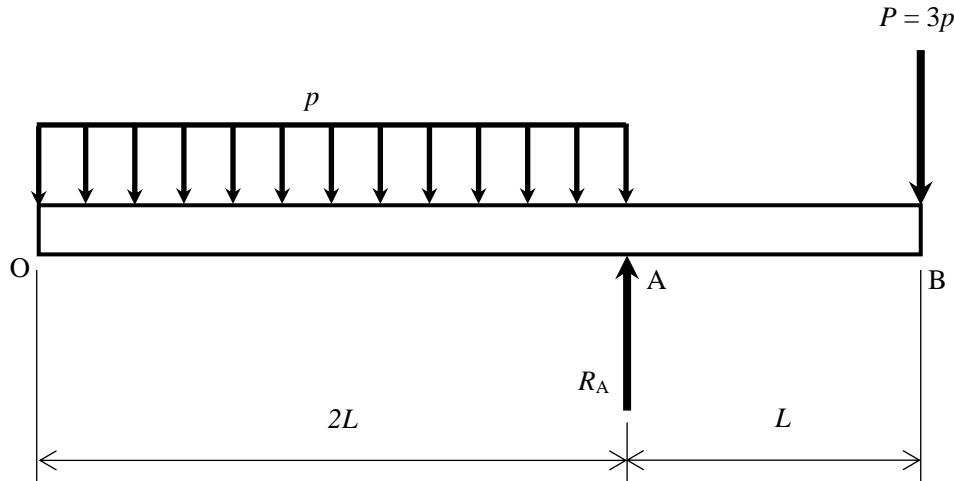


Fig. B はり全体の荷重.

下向きの分布荷重  $p$  によって生じる点 B のたわみ角  $v'_{B1}$ , たわみ  $v_{B1}$  は以下のように求められる.

$$v'_{B1} = -\frac{p(2L)^3}{6EI} = -\frac{4pL^3}{3EI}$$

$$v_{B1} = -\frac{p(2L)^4}{8EI} - \frac{p(2L)^3}{6EI} \cdot L = -\frac{10pL^4}{3EI}$$
(B1)

支点反力  $R_A$  によって生じる点 B のたわみ角  $v'_{B2}$ , たわみ  $v_{B2}$  は以下のように求められる.

$$v'_{B2} = \frac{R_A(2L)^2}{2EI} = \frac{12pL^2}{EI}$$

$$v_{B2} = \frac{R_A(2L)^3}{3EI} + \frac{R_A(2L)^2}{2EI} \cdot L = \frac{28pL^4}{EI}$$
(B2)

点 B にかかる荷重  $P$  によって生じる点 B のたわみ角  $v'_{B3}$ , たわみ  $v_{B3}$  は以下のようになる.

$$v'_{B3} = -\frac{P(3L)^2}{2EI} = -\frac{27pL^2}{2EI} \quad (B3)$$

$$v_{B3} = -\frac{P(3L)^3}{3EI} = -\frac{27pL^4}{EI}$$

したがって、点 B におけるたわみ角  $v'_B$ 、たわみ  $v_B$  は重ね合わせの原理よりそれぞれ以下のように求められる。

$$v'_B = v'_{B1} + v'_{B2} + v'_{B3} = -\frac{4pL^3}{3EI} + \frac{12pL^3}{EI} - \frac{27pL^3}{2EI} = -\frac{17pL^3}{6EI} \quad (B4)$$

$$v_B = v_{B1} + v_{B2} + v_{B3} = -\frac{10pL^4}{3EI} + \frac{28pL^4}{EI} - \frac{27pL^4}{EI} = -\frac{7pL^4}{3EI}$$

なお、たわみについては以下の関係を用いた。

荷重形式	たわみ角 $\nu'$	たわみ $v$
	$\frac{ML}{EI}$	$\frac{ML^2}{2EI}$
	$\frac{PL^2}{2EI}$	$\frac{PL^3}{3EI}$
	$\frac{pL^3}{6EI}$	$\frac{pL^4}{8EI}$